

# 令和5年度 長野県図書館協会

## デジタル版 小中学校図書館部会だより 第165号

### 第73回長野県図書館大会（松本大会）を終えて

県図書館協会小中学校部会松本支部長  
松本市立大野川小中学校 柳澤 充人

#### 1 はじめに ～探究的な学びの楽しみのある大会をめざして～

10月28日（土）、第73回長野県図書館大会（松本大会）が、松本市音楽文化ホールを主会場に、県立長野図書館をサテライト会場として開催されました。300名以上の参加者が、「楽しみのある図書館をつくろう～読む楽しみ・学ぶ楽しみ・交流する楽しみetc～」という大会テーマを自ら探究しながら主体的に掘り下げて学びを楽しむ大会となりました。

本大会を催すにあたり開催地松本の実行委員会が最も大切にされたことは、「楽しむ」ということです。私たちは日々「こうあらねばならない」「時代の変化や求めに応じていくためにこうしなくてはならない」と奮闘し、そして疲弊しています。あるべき姿を考えるのは当然大切なことですが、あえて問いたいと考えました。「そこに楽しみはあるのか？」「何より私たちは楽しんでいるか？」と。人は、楽しさのないところ・楽しんでいない人のところには寄ってきません。「私たちは本・図書館の楽しみをどうとらえているのだろう。改めて話し合ってみたいな」「従来のイメージや枠組みにとらわれずワクワクする図書館の姿を語り合いたいな」「何より参加者が『今日は来てよかった。楽しかった』と感じてほしいな」といった思いから本大会を構想しました。参加された皆さんが少しでもそんな思いで会場を後にしたのであれば大変うれしく思います。



#### 2 基調講演と実践事例発表から ～子どもと本を結ぶ挑戦の楽しみ～

基調講演では、軽井沢風越学園の岩瀬直樹校長先生に「学校と図書館と本～軽井沢風越学園の挑戦～」というテーマでお話をいただきました。風越学園の図書館（ライブラリー）の位置づけと挑戦の取り組み、子どもの学びの姿にはただただ圧倒されるばかりでしたが、「それは風越だからできるんでしょ」とつい言い訳して従来の殻に閉じこもろうとする私たちの内側にある「本当はこうしたい」という熱に働きかけ、「一緒に歩いていきましょう」と力強く背中を押してくれるお話でした。また、実践事例発表では、5つの学校・団体・館から子どもと本を結ぶ実践を発表していただきました。きっと各校各館のこれからの図書館運営の良いヒントとなったことと思います。

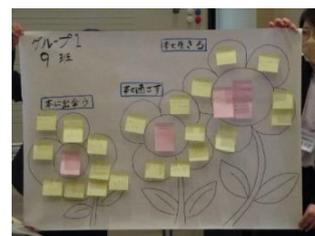
#### 3 グループトークから ～「新しい時代の図書館の『楽しみ』を創り出そう！」～

今回は、館種・職種を超えたメンバー構成によるグループトークという形式で「新しい時代の図書館の楽しみを創り出す」探究的な話し合いを志向してみました。グループ1は「個の楽しみ」、グループ2は「つながる楽しみ」をそれぞれ起点として様々なアイデアが繰り出され、熱心な討議がなされました。「楽しかった」という感想が多く寄せられ、グループトークの案内人を務めた私としては大変うれしく思います。



#### 4 おわりに

今回の大会に向けて、松本市教育委員会・松本市中央図書館を中心に実行委員会が組織され、県関係の委員会や部会の皆様のご助言やご協力をいただいて無事開催することができました。関係の皆様ならびに参加者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今回私たちがめざした方向性が今後のこの大会及び図書館教育の発展につながればこんなにうれしいことはありません。



## 第73回長野県図書館大会（松本大会）参加者の声

松本市立並柳小学校 佐久間恵

10月28日、今年度の図書館大会が、松本市音楽文化ホールを主会場に、「楽しみのある図書館をつくろう～読む楽しみ・学ぶ楽しみ・交流する楽しみ etc～」というテーマで開催されました。サテライト会場として県立長野図書館が用意され、Web 会議ソフトによって会場を繋いでお互いの雰囲気を感じることができました。

はじめに、軽井沢風越学園の岩瀬直樹先生による、「学校と図書館と本～軽井沢風越学園の挑戦～」というテーマでの基調講演をお聞きしました。図書館が学校の中心に設置され、子どもが調べたいことを探したり、上の学年になった子が自分の読んできた本を紹介したりする様子を、写真を交えて紹介していただきました。楽しむ場でもあり、情報を得られる場でもあり、そして、大人も子どもも居心地がよさそうな、素敵な雰囲気の図書館でした。学校の図書館は、教室からすぐに立ち寄れるような場所に無いことも多いのですが、岩瀬先生が、「風越だからできるでしょ。ということではなく、できることはたくさんある」とお話をされたことを励みに、「子どもと本を結ぶ人」という役割に取り組みたいと感じました。

次の実践事例発表では、図書館に関わる様々な立場の方が、どのような工夫や取り組みをされているか具体的に紹介していただきました。どの実践発表も興味深かったのですが、中でも大野川小中学校図書館司書の筒木先生の実践は、本を読む楽しみや共有する楽しみだけでなく、お話を作る楽しみも紹介されていました。「おはなしの箱」という即興のお話披露の実践は、図書館に置かれていたら、きっとお話が好きな子が何度も通ってくるだろうと思いました。学校での実践は、自校でも実現できそうで、これからの図書館運営に良いヒントを頂くことができました。

午後の分科会では、グループトークを行い、グループ1「個の楽しみを起点として」とグループ2「つながる楽しみを起点として」の2つに分かれて意見交換や情報交換を行いました。私が参加したグループ1では、小グループに分かれ、県内各地から参加された方とアイデアを出し合いました。本や図書館の楽しみを出し合う場では、本を読むことで本の世界に没入できる楽しみ、知りたい情報を得られる楽しみ、親子の触れ合いなど共有する楽しみが出ました。それぞれを実現するために、居心地のいい特別な椅子、作家のコーナー、保護者が子どもの通う学校で本を借りられる日を設定するなど、たくさんのアイデアが出てきました。楽しみのためにどんなことができるかという話し合いは、話すこと自体がワクワクして楽しいものでした。

一日を通して、楽しみのある図書館をつくることについて、お話を聞いたり考えたりしたことで、これからの自校での実践も楽しみながら取り組んでいきたいと思いました。

少し肌寒い秋晴れの日、松本市音楽文化ホールにおいて、長野県図書館大会が開催されました。当日は、パイプオルガンのある素敵なホールに多くの方々が集い、図書館のこれからのありかたについて考え、語り合いました。

基調講演では、「学校と図書館と本 ～軽井沢風越学園の挑戦～」と題し、軽井沢風越学園校長の岩瀬直樹先生のお話をお聞きしました。講演は、まず、先生と本との出会いのお話から始まりました。講演の途中では、隣の方との意見交換をする場面もあり、始終和やかな雰囲気が流れていました。風越学園の整った環境にたくさんの本がある空間や、それぞれの自由なスタイルで本を楽しむ子どもたちの映像には、ため息がでる思いでした。こんな理想的な空間で本を楽しむことができることを本当に羨ましく思うとともに、自分たちの図書館でも何か実現できることがあるのではないかと考えさせられる講演でした。

午後の実践事例発表では、小中学校の図書館や地域の公共図書館の方々の、アイデア溢れる様々な取り組みを発表していただきました。試行錯誤の取り組みの中から、本との出会いをより良いものにしたという熱意を感じる発表ばかりでした。自分たちが関わっている図書館を頭に思い浮かべながら、図書館をよりよいものにしていくたくさんの工夫を学ぶことができました。

その後行われたグループトークでは、東北信会場の県立長野図書館をオンラインで結びながら、「新しい時代の図書館の「楽しみ」を創り出そう！」ということについて考えました。「楽しみのある図書館」って？どんな工夫ができるの？と、実現可能かどうかという常識を越え、自由な発想で色々なアイデアを出し合い、夢の図書館について意見を出し合いました。各テーブルには、小中学校の図書館に携わる人、公共図書館に携わる人、その他様々な立場の人々が集まり、活発に意見を交換することができました。机に広げられた模造紙には、「こんなことができたらいいな」という夢のようなアイデアが書かれたカラフルな付箋がたくさん貼られていきました。ともすると閉鎖的になりがちな図書館が、その場所を飛び出し、学校や地域の枠を越え、世代も越えて、どんどん広がっていく高揚感を感じました。本会に参加した人々の熱意と工夫があれば、いつか、夢のような図書館作りを実現できる時が来るかもしれません。

この大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

# 令和5年度 第32回北信越地区学校図書館研究大会 石川県学校図書館研究大会（能美大会）に参加して

県図書館協会小中学校部会副部会長  
長野市立徳間小学校 長井 裕之

先日、表題の研究大会が石川県能美市にて開催されました。これからの学校図書館には、GIGAスクール構想の加速化により、情報サービスや学習支援、読書推進の在り方などに対して対応が迫られている中、学校図書館について共に研究を深め、学び合い、新たな発見や創造の場となる大会でした。以下、概要のみですが参加報告を申し上げます。

- 1 大会主題 G I G Aスクール時代の学校図書館 ～学校図書館と1人1台端末～
- 2 期日・場所 令和5年10月19日（木）～20日（金） 石川県能美市にて
- 3 会 場 ○全体会・分科会・記念講演 能美市辰口福祉会館  
○公開授業 能美市立辰口中央小学校 宮竹小学校 和気小学校  
能美市立辰口中学校 石川県立寺井高等学校
- 4 日 程 ○1日目：公開授業（5校） 開会式 全体会 全国SLA報告  
○2日目：分科会 記念講演 閉会式
- 5 講 師 ○全国SLA基調報告 「学校図書館の現状と課題」  
社団法人全国図書館協議会 理事長 設楽 敬一 氏  
○記念講演 「石川県立図書館の概要と活用」  
石川県立図書館 館長 田村 俊作 氏
- 6 部会および部会テーマ  
(1) 学習情報指導部会 テーマ「学校図書館メディアを活用し、自ら学ぶ力を育てる」  
(2) 読書指導部会 テーマ「読書活動を促進し、豊かな人間性を育てる」  
(3) 図書館運営部会 テーマ「学校図書館のアクセシビリティ」  
※各部会の中でさらに小・中・高の校種別の分科会に分かれ、全9分科会で各3本のレポート発表をもとに小グループでの協議を行った。

## 7 その他

数年ぶりの参集での開催ということで、特に分科会では、対面ならではの大変熱のこもった討議や意欲的な情報交換がなされていました。長野県からも分科会での発表者・助言者も含め、参加してくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

また、次回、第33回北信越地区学校図書館研究大会は、長野大会として令和7年度に佐久地区にて開催予定でございます。それに向けての準備につきましても、関係各所と連携を計りながら推進していければと思います。よろしくお願い申し上げます。

# 地区学校図書館教育研究会から

東信地区

11月7日(火) 佐久穂町立佐久穂小学校・佐久穂中学校

「東信地区 学校図書館研究大会を終えて」

佐久支部代表 軽井沢町立軽井沢西部小学校 田野 公章

## 1 研究テーマ

小学校「子どもたちの本の世界を広げるために ～読書ナビゲーターとしての司書の活躍を目指して～」

中学校「自ら学び続けるための学校図書館の活用」

## 2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学級・授業者	教科・単元名	指導者
佐久穂小学校	3年3組 高橋 一央 教諭	国語 絵本ソムリエになろう	東信教育事務所 学校教育課 白井 敬 指導主事
佐久穂中学校	8年3組 高見澤益子 教諭	英語 おすすめ本を紹介しよう ～Book talk～	東信教育事務所 学校教育課 倉澤 航 指導主事

## 3 施設見学

今年度は講演会を行わず、小中併設の図書館と学校に大変近い立地の町立図書館(佐久穂町立茂来館図書館)の施設見学を行った。情報センターとしての学校(学校司書)と公立図書館(司書)の連携について具体的な取り組みを紹介していただきながら、自校の連携へイメージを持つことができた。

## 4 参加者人数 43名

## 5 まとめ

### 【小学校】

本を紹介する相手とインタビュー活動等で交流した子どもたちが、相手に合った本を選ぶ場面でインタビューした内容や蓄積した絵本名人カードを参考にしたり、司書の先生に相談したりすることを通して自分で選書し、その理由をワークシートに(ソムリエからのメッセージ)書く授業でした。担任と司書の連携がさらに進化していくことが期待できる授業でした。



### 【中学校】

Book Talk のグループ発表を行い、改善点を確認した生徒たちが、更に付け加えたい内容を吟味し、新しいペアやグループメンバーで発表し合うことにより、スピーチの表現をよりよくすることができる授業でした。8年生が5・6年生へ向けて興味を持ってもらうように話す目的意識がはっきりしていたこともあり、選書や説明文が分かりやすく、配慮がなされていました。図書館教育と各教科との連携が多種多様であることに改めて気づかされました。



当日は学校司書の先生方の参加が大変多く、授業研究ばかりでなく、ワークショップ等の研修の機会としての方向性も今後検討していきたいと思いました。

## 令和5年度東信地区図書館教育研究会参加報告

### 「本に親しむ姿が見られたうれしい時間」

浅間中学校 学校図書館司書 相川智子

1月7日に佐久穂小中学校で行われた東信地区学校図書館教育研究会に参加させていただきました。勤務地の佐久市以外の学校で研修会をする機会が今までなかったので、とても刺激になりました。

まず、佐久穂中学校は小中一貫校ということで、小学校と中学校で一つの図書館を共有されているとのことでした。一般的な中学校では絵本が少なかったり、一般的な小学校では読み応えのある本が少なかったりします。しかしながら佐久穂小中学校では小中共有で一つの図書館を使用しているということで、どちらのニーズにも十分応えることができるのでとても魅力的でした。

研究授業では8年生(中2)は『Book talk をしよう』(英語の単元だったためすべて英語)、小学3年生は『絵本ソムリエになろう!』ということでした。児童生徒が本に親しむ姿を間近で見ることができ、学校司書としては大変うれしい経験となりました。

司書の関わりが多い生徒は図書館に来る生徒、つまりたくさん本を借りてくれる生徒なのですが、本当は在学中に1冊も借りないような生徒ともっと関わりたい。読書の楽しさを知ってもらい、本を読んでもみたいと思ってもらえるような活動に力を入れたいと以前から思っています。

1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合“不読率”が、文科省の調査によると令和4年度では小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%とのことです(※1)。高校生に関しては約半分の生徒が1か月に全く本を読まないようですが、微力ながらも今後私にできることは何か、模索していきたいと思いました。授業の準備をしてくださった先生、会場準備をして下さった佐久穂中学校の先生方、ありがとうございました。

※1) 文科省 第五次『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』についてより引用

佐久市立岸野小学校 学校司書 掛川裕恵

「絵本ソムリエになろう」という魅力的な単元名にワクワクしながら参加しました。会場の佐久穂小中学校の図書館は明るく開放感があり、小中併設のため蔵書も豊富でした。

授業学級の3年3組の子どもたちの手には、6月から蓄積してきた絵本名人カードが入った厚いファイルがありました。絵本1冊につき1枚のカードに「タイトル」「オススメ度」「絵本のふんい気」などを記入しファイルしてあります。たくさん読むと名人ランクがアップし、授業の中でも名人ぶりを発揮していました。授業者の高橋先生は、100冊以上読んだ虹色カードの子たちは必ずしも本が好きではなく、この学習の中で貸出し量が増えたとお話しされました。図書館に足が向きにくい子への一つの手立てになる活動でした。

授業は、今まで読んできた絵本と手渡す4年生へのインタビューを合わせ、相手にぴったりの1冊を選び抜くソムリエ活動でした。あっという間に選び出す子、学校司書の新津先生に相談する子、なかなか見つからない子、それに寄り添う子など1時間の中で絵本と真剣に向き合うたくさんの姿を見ることができました。読書をして自分の中にためたものを誰かに伝え、広めていくことも読書の大切な、そして楽しい一面であることも教えていただきました。

指導者の白井先生からは、R6からの国語の教科書6学年分で紹介されている本は667冊にもものぼること、教科書教材で学んだことを応用していくことが大切であること、そのために学校図書館はどこでどんな活用ができるのかを年間通して見通していくことが必要だと教えていただきました。学校司書は先生方に「こんな活用ができますよ」とお知らせし、「おせっかいになりましょう」というエールもいただきました。

その後、佐久穂町立図書館へ移動し施設見学をしました。数日前に生けたばかりの假屋崎省吾さんの作品と香りに魅せられ、図書館の温かい雰囲気癒され、時間いっぱい滞在しました。学校図書館も子どもたちにとってそんな場所でありたいと感じた一時でした。



9月7日 飯山市立秋津小学校 飯山市立城北中学校

## 「北信地区図書館教育研究大会を終えて」

飯水支部代表 飯山市立城北中学校 三井 康幸

### 1 研究テーマ

「自ら学び、考えや思いを深めるための教科領域と学校図書館との連携のあり方」

### 2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学級・授業者	教科・単元名	指導者
飯山市立 秋津小学校	5年 黒岩 瑞樹 教諭	国語「作家で広げるわたしたちの読書—子ども司書として、学校や地域の人に作家の魅力を伝えよう—」	北信教育事務所 水野 真澄 指導主事
飯山市立 城北中学校	3年1組 水野 力 教諭	特別活動「全校でビブリオバトルを楽しもう」	北信教育事務所 水野 真澄 指導主事

### 3 講演

- (1) 演 題 「信州地域史料アーカイブ紹介・活用講座」
- (2) 講 師 宮下 明彦 先生 (長野県図書館協会顧問)

4 参加人数 小学校9名 中学校22名 計31名

### 5 まとめ

#### 【秋津小学校会場】

「子ども司書」として校内や市立図書館で作家やその作品を紹介する活動などを通して、より図書館との関わりを広げてほしいと願い、「作家で広げるわたしたちの読書」という単元を構想した。本時は、作家や作品の魅力を表すキャッチコピーを考える場面で、設定・テーマ・表現の三つを観点に友達と話し合い、作家や作品についての自分の考えを広げることができた。

#### 【城北中学校会場】

例年行っている文化祭での全校ビブリオバトルに向けて、各学級でチャンプ本の選考会を行った。そして、学年内ビブリオバトルに備えて、学級内でアドバイスや感想等を共有する場面であった。紹介された本のおもしろさを深掘りするために質問が出されたり、学年内ビブリオバトルに向けて「前を向いて発表できたらもっとよい」などアドバイスしたりする生徒の姿があった。市立図書館の館長様にも参加していただき、学校図書館を活用した授業を参観していただくことで、貴重な情報交換の場となった。

#### 【講演会】

宮下先生の講演会では、平成25年から郷土史研究者の協力を得て始められた「信州地域史料アーカイブ」のご紹介と活用についてご講義していただきました。図書館等で保存されている信州の災害や教育関係等の貴重で有用な史料をデジタルアーカイブして、アクセスした誰もが使えるようにしたものです。デジタル資料の活用が少しずつ定着してきた今、今後さらに授業での活用も期待されてくるのではないのでしょうか。



秋津小公開授業



城北中公開授業

#### 【全体を通して】

2つの会場校が離れていて移動に時間がかかることもあり、午前中に小学校（授業と研究会）、午後に中学校（授業と研究会）と講演会を設定した。そのせいかあるいは北信北部という学校所在地のせいか小学校への参加者が少なく残念であった。

## 北信地区学校図書館教育研究大会参加報告

飯山市立城南中学校 廣瀬いづ美

城南中学校図書館の勤務になって4年目となり、改めて中学での読書に関するイベント・アイデアについて考えたく、城北中学校での公開授業に参加させていただきました。発表者である7人の生徒によるビブリオバトルは、物語に限らず絵本や占いの本を紹介しており、内容を読みながら好きなどころを伝えるなど、3分間を有効に使い紹介していました。その後の2分間の質問タイムも穏やかに進み、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーとするビブリオバトルのよさが伝わりました。研究会で水野指導主事が「クラスの雰囲気良さ」と共に、「生徒が行事の趣旨を理解し、相手を尊重できている」とおっしゃっていたとおり、あたたかい雰囲気の中で楽しく比肩することができました。発表者と参加者のコミュニケーションが育まれるビブリオバトルは、学校の読書活動において非常に有効な手段だと考えられます。私自身、城北中学校勤務時に読書旬間のイベントとしビブリオバトルを実施するときは、ビブリオバトルが未経験であり、知らないという生徒が多く、発表者を募ることが難しい年がありました。理解を深めるため、ビブリオバトルについて各クラスで説明をし、ルールブックを作成・配布をしたうえで実施していた経験をふりかえると、図書委員会が運営し、学校祭行事のひとつとして、現在城北中学校にビブリオバトルが根づいたことに、小林司書をはじめ、教職員の皆様の理解と連携の力を強く感じました。

後半では宮下明彦さんにより、信州地域史料アーカイブをご紹介いただきました。善光寺地震について書かれた貴重な地域史料がインターネットで見られること、現代語訳までカバーされていることに驚きました。また、動画で三重県伊賀市立西小学校の地域のデジタルアーカイブ資料を活用した授業実践を見て、生徒がデジタル資料にふれやすい環境にありながら、学校司書である自分自身がデジタル化に慣れていないことを反省しました。デジタル面において学校図書館は、先生方とどのように連携し、アーカイブ史料を有効に活用することができるのか、研鑽を深める必要性を感じました。



飯山市立秋津小学校、常盤小学校 津金智穂

5年生の国語「作家で広げるわたしたちの読書」の単元に、学校司書として携わりました。市立図書館からも四人の作家（あさのあつこ、草野たき、工藤直子、さくらももこ）の本を集めると、子どもたちは自分で作家を決め自然に数人ずつのグループができました。夏休み前から自分で選んだ作家の作品を読み深め、作品に共通する三つのポイント「登場人物などの設定、テーマ、表現の特徴」をメモしました。同じ作家グループでタブレットを活用し、作家や作品の魅力を表わすキャッチコピーをつけます。違う感じ方をした人の意見を尊重しながら、キャッチコピーをまとめていくそれぞれのグループの良さが出ていました。

授業後の研究会では、「どうしたら長編に手が伸びるか」という同じ悩みを聞きました。作家に注目して本を選ぶ子は少ないようです。好きな作家と出会えたら長さや表紙などで苦手意識を持たずに、一作を読み終える楽しさと自信を積み重ねていってほしいと思います。

出来上がったキャッチコピーは、家族や地域の方、より多くの人に見ていただくために市立飯山図書館に展示したり、校内で展示したりすることを目指して取り組みました。

担任の先生による子どもたちへの読書の働きかけは、影響力が大きいと感じました。目的を持った読書を行ったことで、作家に注目した読書の楽しさに少しずつでも気づくことができたらと思います。

図書の時間の借り換えだけではわからなかった、子どもたちが自分の言葉で作品を解釈する力を知ることができたので、今後の図書の時間に繋げていきたいと思っています。

## 「南信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

諏訪支部代表 茅野市立金沢小学校 三澤 ゆり

- 1 研究テーマ 「自ら学び、考え、豊かな心を育てる図書館教育の在り方」  
～ 本・人・ふるさとと 子どもをつなぐ ～

### 2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学年・授業者	単元名	助言者
中洲小学校	6年 西川 朱里 教諭	総合的な学習の時間 「広めよう 風樹文庫プロジェクト」	元豊田小学校長 伊東 秀 先生
諏訪南中学校	3年 濱野まりな教諭	国語「君待つと（和歌）」	東信教育事務所 久保貴史 主任指導主事
アトラクション：中洲小学校6年児童 紙芝居「岩波茂雄物語」「風樹文庫物語」 実演			

### 3 講演

演題 「岩波茂雄の出発 — 野尻湖暮らしと漱石との縁 —」  
講師 堀井 正子 氏（文学研究者）



「岩波茂雄の出発 — 野尻湖暮らしと漱石との縁 —」と題して、岩波書店創設者の岩波茂雄と、夏目漱石の関わりについてお話しいただいた。明治から大正にかけての新しい文化の草創期にあたり、多くの諏訪出身者がつながりあい、情熱をもって活躍していたこと、岩波茂雄が自分の志した道を、信念を持って進んでいったこと、夏目漱石の後進を育て支えようとする心などから、文字や文学を介して思いが伝わり、引き継がれていくことの尊さや重みを改めて教えていただいた。

夏目漱石の後進を育て支えようとする心などから、文字や文学を介して思いが伝わり、引き継がれていくことの尊さや重みを改めて

### 4 参加人数 87名

### 5 まとめ

#### 【小学校】

図書館教育研究テーマを「子どもたちも教師も地域の宝をもとに主体的に取り組める図書館教育のあり方」とし、全校で諏訪市の宝である「信州風樹文庫」について学んできた。6年生児童は、風樹文庫運営委員の方々と出会い、2つの紙芝居の存在と、その存続を願う委員の方々の思いを知り、自分達はその思いを引き継ごうと上演に向けて原稿を付け加えたり、演出を考えたりして練習を重ねてきた。授業では、途中経過を発表し合い、発表グループの願いを大事にできるよう、チェックポイントに沿ったアドバイスを行った。グループごとに、アドバイスをどう生かすか話し合ったり、アドバイスをした側も、自分達の発表について考え直したりして、上演への意欲を高めていた。授業後には、早速アトラクションとして参加者に向けて紙芝居の一部を上演し、授業の成果を生かすことができた。

また、信州風樹文庫を公開していただき、授業と関連づけて見学を行うことができた。

#### 【中学校】

グループごとに百人一首から和歌を選び、歌人や時代背景について図書館の資料を利用してパワーポイントにまとめて発表した。印象に残ったことや魅力を感じたことをメモしながら他のグループの発表を聞き、それぞれが感じ取った魅力について、仲間と意見や考えを出し合い共有した。発表を聞く中で、昔の歌人と現代に生きる自分達の、感情の動きや考えの共通点を感じ取ったり、百人一首への関心をさらに深めたりすることができた。研究会では、インターネットと図書館の利活用について活発な意見交換がなされた。

## 南信地区学校図書館教育研究会参加報告

諏訪市立豊田小学校 飯田 エリ

諏訪市立中洲小学校会場に参加し、6年生の総合的な学習の時間「広めよう風樹文庫プロジェクト」を参観させていただきました。

身近な地域教材を学習材とし、授業づくりをする方法を学ばせていただきました。今回の参観を生かして、私たち豊田地区の宝を、図書館教育とつなげ、学級づくり・授業づくり・児童会活動を実現できれば良いと考えています。児童一人一人の思いや願いを実現するために、「地域を大切にする」学習は、とても大切だと思いました。授業や研究会を通して、地域を知るために、図書館教育を活用することが必要だと感じ、また、図書館教育のおもしろさを学びました。

授業後に、中洲小の6年児童の皆さんのアトラクションを見ることができ、うれしかったです。ぜひ、豊田小の子どもたちにも見て欲しい・知ってほしいと思いました。間接的でも、直接でも、紙芝居を見る機会が実現できればと思っています。

講演会では、堀井先生が、分かりやすく岩波茂雄の生き様を話してくださいましたので、とても興味深く聞きました。今まで文学研究は難しいと思っていましたが、講演会に参加し、文学のおもしろさを感じました。諏訪市に勤務し、「岩波茂雄」「岩波文庫」「信州風樹文庫」と出会えて、自分を高めることができます。自校の図書館教育にも生かしたいと思います。心に残る大会をありがとうございました。

下諏訪町立下諏訪中学校 宮下 正由輝

諏訪南中学校での、国語「いにしへの心と語らう『君待つと 一万葉・古今・新古今』(光村図書 国語 3)」の授業を参観しました。

研究会は、私自身も「インターネットと図書館の利用」について悩んでいたもので、大変ありがたい内容でした。他の先生方の考えも聞くことができ、来年からの授業や図書館の運営に活かしていきたいと思いました。多くの先生方も同じように悩んでいることだと思います。今回学んだことを広めていくことも、図書館教育を進めていく上で大切なことだと思いますので、研究部会としても何かできればよいと感じました。

堀井正子先生の講演会では、少し難しいところもありましたが、「今まで知らなかった岩波茂雄」について知ることができました。夏目漱石とのつながりや、学生の頃からの悩みなど、苦勞をしつつ、縁を大切にして生きてきたのだと感じました。岩波書店を開店するにあたって、意志の強さや、周りを巻き込んでいく力など、岩波茂雄のすごさを感じました。背景を知ること、更におもしろくなりました。また、堀井先生が楽しそうにお話をされる姿が一番印象に残り、あんなふうに自分も話せるようになりたいと思いました。

楽しく学ぶことができましたことを、会場校の先生方や役員の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第165号  
発行日 令和6年1月26日  
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内  
長野県図書館協会小中学校図書館部会 (代表 林 明美)